

2017年(平成29年)3月20日(月曜日)

花壇で飯舘村かたどる



スイセンを植える学生ら(19日、飯舘村で)

学生ら制作「観光地のひとつに」

今月31日に東京電力福島第一原発事故による避難指示の一部が解除される飯舘村で19日、東京大大学院(東京)の学生ら約30人が村の形をした花壇を作る作業を行った。

作業が行われたのは、同村小宮、大久保金一さん(76)の自宅敷地の一角。大久保さんは、震災の記憶を伝える場を作ろうと、自宅周辺に植物を楽しめる「花壇」を整備してきた。同村の小中学校に通った、東大大学院修士課程2年、佐藤聡太さん(24)ら学生グループ

がその活動を知り、手伝うようになったという。

佐藤さんらは畑の跡地約400平方メートル、村の形をした花壇を作ることになり、この日はスイセン約350株を村の輪郭に沿って

植えたほか、ピンク、赤、紫などの花を付けるバラの苗木約100本も植えていた。

佐藤さんは「村の観光地のひとつにしたい」と話した。

仮設の自治会に別れ 川俣

東京電力福島第一原発事故で川俣町山木屋地区に出された避難指示が今月31日に解除されるのを前に、仮設住宅に暮らす住民らで作る自治会の解散が決まり、19日に同町で別れ会が開かれた。写真

原発事故直後は、400

